

タイプRの心臓を隠し持った アメリカンテイスト溢れるクーペ



Sound Connection EJ7 spec.

エンジン	E10B仕様
最高出力	2100ps
コンディショナー	AEM
エアクリ	AEM V2
マフラー	マキシムソックス
ブレーキ	オリジナルDualスプリング80mm、テール100mm
スロットル	SPOON
点火系	ULTRA
電装系	ULTRA
冷却系	アルミ3層ラジエーター
燃料系	AEM
クラッチ	SPOON
ドライブシャール	SPOON
デフ	SPOON
ショック	CRLX
スプリング	F150kg/mm R10kg/mm
スタビライザー	TYPE-R
ブレーキパッド	FR:KORGSCHE RAEM
ブレーキローター	R230 & R280
キャリバー	FR:PORSCHERAEM
タイヤ	TOYO プロクセスTR (FR215/35-18)
ホイール	+61motorsport R/R18X7.5J
エクスタリア	カーボンリップ、KAMINARIサイド、リアバンパー、WINGSWESTリアスポイラー、UFS正ミラ

アメリカン・ブランドのパーツ輸入、販売を手掛けるサウンドコネクション。そんなショップだけに、デモカーのシビックはアメリカンテイストに溢れたものとなっている。しかし、このクルマは単なるスポコンドレスアップ仕様ではない。スタイルはもちろんだが、走りの楽しさもじっくり追求されているのだ。その証拠に、このままの状態ですらキットにも付くそう、しっかりとそれなりのタイムを残さるという。つまり、アメリカでシビックをチューニングするところなりまして、というようなイメージで仕上げられているのだ。ベースとなっているのは日本でも限定発売されたEJ7アンビックスクーペ。だが、エンジンやミッションはEK9からそのまま移植。さらに吸排気系の変更、AEM製のCPUによる制御などによって、パワーとスポーツ性を演出している。AEMはアメリカのメーカーだが、後の地ではN.O. 1ブランド。レースなどで採用されることもあるほど、高性能なのだという。また、外観のカッコよさの追求にも抜かりはない。ミラーや灯火類などがUS仕様へ変更されている他、ここでもアメリカのKAMINARI製のエアロなどを装着することで、日本車らしからぬ空気を作り出している。今後はさらにシヨーカー的な差を遂げていく予定だそうだ。



エンジンはEJ7には設定のないB16Bに変更。エンジン以外にも、ミッションや駆動系などもEK9のものをそのまま流用している。エンジン内部には手づけられている。

エアクリ ナーと、スロットルまで細くインタークーパイプはアメリカのAEM製。その後ろに見えるタワーバーも合わせて、取り回しや雰囲気が異なっているのが興味深い。



AEMのキットを用いて、ブレーキはグレードアップされている。フロントに装着されているのはパドルブレーキ。パドルもパドルも止めたが、リキッドでも十分な動き。



内装は前例に倣ったスパルコのパケットシートに合わせて、すべてフルに貼り替えられている。それに併せられれば、パケットシートと同じスパルコのものを使用。



左右2本出しにされているマフラーはオリジナルのステンレス製。エアロパーツの存在感と相まって、リアビューのインパクトは強烈。



サイドステップはKAMINARI製を装着。アメリカ製だが、非常にクオリティが高いのだという。クオリティにも期待できるメイドインU.S.A.という部分もこだわりのひとつ。

リアバンパーはKAMINARI、リアスポイラーはWINGSWESTのものそれぞれ装着している。サイドがスモーキングされていることもあって、非常にすっきりとした印象だ。



リアはノーマルのドラム式から、AEMのキットによってディスクへと変更。大径のホイールとの組み合わせは、ドレッシング効果も高い。